

第2次長野県スポーツ推進計画 ～スポーツの力で切り拓く長野県の未来～ 【概要版】

長野県教育委員会事務局スポーツ課

計画策定の基本的考え方

- 計画策定の趣旨
 - ・運動する子としない子の二極化、若年世代のスポーツ活動参加の低迷、少子化の進展による運動部活動のあり方など、新たな課題の浮上
 - ・2027年に第82回国民体育大会と第27回全国障害者スポーツ大会の本県開催が事実上決定
 - ・本県のスポーツ界の歴史に新たなページを刻む両大会の開催を見据え、10年後の目指す姿と、今後5年間に取り組むべき施策を明らかにした新たなスポーツ推進計画を策定
- 計画の位置付け
 - ・スポーツ基本法第10条第1項の規定による「地方スポーツ推進計画」
 - ・「しあわせ信州創造プラン2.0(長野県総合5か年計画)」及び「第3次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画
- 計画期間
 - 2018年度(平成30年度)～2022年度(5か年)

基本目標

- 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実**
 - 1 幼児期からの運動の習慣化
 - 2 学校体育・運動部活動等の充実
 - 3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実
- 基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実**
 - 1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
 - 2 地域のスポーツ環境の整備
- 基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成**
 - 1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上
 - 2 スポーツ界の好循環の創出
- 基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用**
 - 1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
 - 2 スポーツを通じた人々の交流促進
 - 3 プロスポーツとの連携・協働の推進

2027年第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催に向けて

第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催

全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信

- より多くの県民が各々の関心や適性に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造
- 地域の魅力発信による経済の活性化

「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現

10年後の目指す姿と施策の展開

基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

《10年後の目指す姿》

- ・長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。
- ・運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。
- ・地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加するなど、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。

(現状と課題)

- 子どもが外で体を動かして遊ぶ機会の減少
- 運動をする子どもとしない子どもの二極化
- 気軽に遊べる施設や機会の整備

(施策の展開)

- 幼児期からの運動遊びの推進
- 少子化等を背景とした合同部活や地域スポーツ団体との連携など多様な運動部活動の推進
- 特に運動時間の少ない中学生女子を対象とした授業改善や「ゆる部活」等の導入支援
- 多様なニーズのある子どもの受け皿となる地域スポーツ団体との連携

【達成目標】

指標名	現状	目標(2022)
体力合計点	50.4点(H29)	52点
運動好きな子どもの割合(中学生女子)	78.7%(H29)	80%
1週間の運動時間が60分未満の子どもの割合(中学生女子)	23.6%(H29)	20%以下

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

《10年後の目指す姿》

- ・オリンピックやパラリンピックなど、国際舞台や全国大会で活躍する本県選手が増加している。
- ・ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファーなど、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。
- ・長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。

(現状と課題)

- 国民体育大会(本団体)における成績の低迷
- ジュニア選手の減少と有力選手の県外流出
- アスリートの県内就職について企業への働きかけ・周知不足

(施策の展開)

- 2027年国体を見据え、関係団体で構成する「競技力向上対策本部」の設置と「競技力向上基本計画」の策定
- 指導者の育成と確保対策の強化
- ジュニア選手の発掘・育成、女性アスリート支援、異種競技間の交流
- 長野県で育った選手が指導者となり、将来の本県のスポーツ振興を支える好循環づくり
- アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業」の強化

【達成目標】

指標名	現状	目標(2022)
国体男女総合(天皇杯)順位	18位(H29)	10位以内
全国大会におけるジュニア入賞数	218人・団体(H29)	250人・団体

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

《10年後の目指す姿》

- ・多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族や仲間とスポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
- ・スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。
- ・障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

(現状と課題)

- 習慣的に運動・スポーツをする成人は5割未満
- 「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の普及・定着
- 障がい者スポーツに対する認知度・理解度の不足

(施策の展開)

- 「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と定着化
- スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなど地域スポーツ団体との連携
- 県立武道館を核とした武道振興
- 地域スポーツ団体と連携した障がい者スポーツの振興

【達成目標】

指標名	現状	目標(2022)
運動・スポーツ実施率	49.3%(H28)	65%
直接スポーツ観戦率	13.4%(H28)	15%
スポーツボランティア参加率	8.1%(H28)	10%

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

《10年後の目指す姿》

- ・長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。
- ・山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。

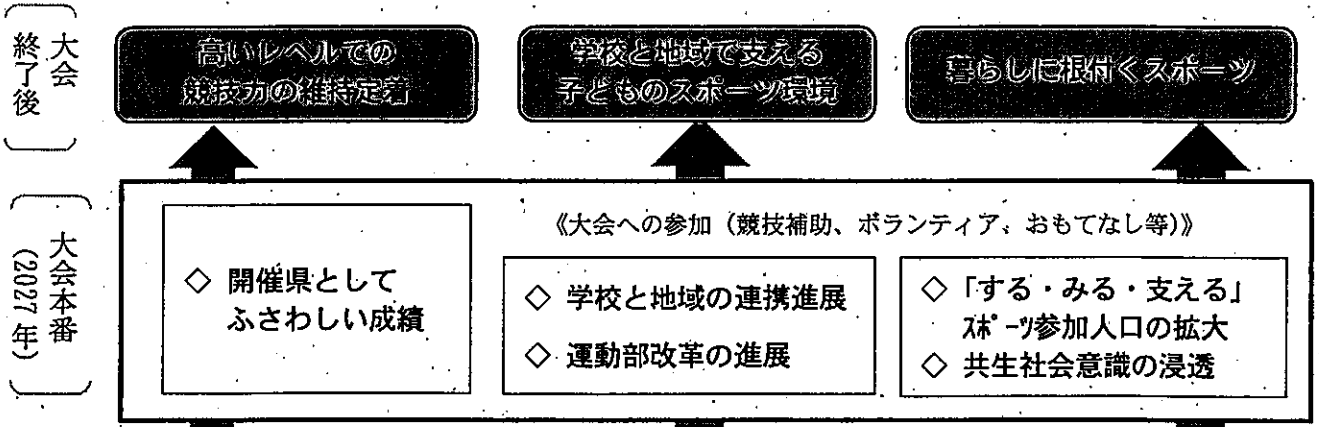
(現状と課題)

- 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承
- 2027年国体・全国障害者スポーツ大会競技会場の魅力発信

(施策の展開)

- 県スポーツコミッションによる大会やスポーツ合宿の誘致促進による地域活性化
- 山岳やウィンタースポーツなど、本県ならではのスポーツの魅力発信による誘客促進
- 県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興

2027年の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催に向け、より多くの県民が個々の関心や適性等に応じてスポーツに親しめる環境を作り出し、大会後につながるスポーツ文化を創造する。



Ⅰ 子どもの運動・スポーツ機会の確保

- 現状課題**
- ・体力は全国平均を確保(中学女子は38位)
 - ・運動時間は全国最下位レベル
 - ・少子化による部活動の存続困難
 - ・教員の働き方改革

数値目標(2次スポーツ計画)	現状 2017	目標 2022
体力合計点(小中男女)	50.4点 (23位)	52点 (10位)

1週間の総運動時間(授業除く) H29 調査

	小男	小女	中男	中女
全国順位	47位	47位	42位	43位
全国差(h)	△111	△89.6	△59.4	△84.7

Ⅱ 競技スポーツの振興

- 現状課題**
- ・冬季以外は毎年厳しい戦い
 - ・2027国体で開催県にふさわしい成績を収めるためには「オール長野」の総力を挙げた取組が必要

数値目標(2次スポーツ計画)		現状 2017(2018)	目標 2022
国民体育大会	男女総合(天皇杯)	18位(13)	10位以内
	冬季大会順位	1位(1)	1位
	本大会順位	45位(32)	20位台
ジュニア入賞者数		218人団体	250人団体

Ⅲ 生涯スポーツの振興

- 現状課題**
- ・スポーツ実施率は低迷
 - ・「みる」「ささえる」層は少ない
 - ・地域スポーツ団体の運営基盤は脆弱

数値目標(2次スポーツ計画)	現状 2017	目標 2022
運動・スポーツ実施率	48.1%	65%
地域スポーツクラブ加入率	9.9%	15%